

平成19年度（2007年度）事業報告

第15期 平成19年（2007年）4月1日～平成20年（2008年）3月31日

<昨年度を振り返って>

平成19年度は、ソムニードの基本理念と中期方針（2007年度～2010年度）にある「コミュニティの再生と強化」に向けて、新たにインドとネパールの農村部での「人づくり・森づくり・地域づくり」の3年間の事業がスタートしました。

また3年間、JICA草の根技術協力事業で実施してきた都市スラムを中心とした女性自立支援事業が平成19年6月に終了。ソムニードによる様々な研修を受けた女性リーダーたちは、銀行業をスタートさせ、わずか15ヶ月で貸付高を10倍にし、低所得層の女性の慢性的なキャッシュフローの不足解消に成果をあげ続けています。事業終了後も都市スラムと農村部の女性たちのクラフト素材ビジネスを通じた連携も継続。共有資源の乏しい都市スラムの女性たちと一緒に実現した「人づくり・地域づくり」。その方法論は、新しく始まった農村部での事業にも継承されていきます。

また、平成19年度はソムニードが組織として大きく成長し始めた年でした。これまで理事が担っていた業務を、事務局スタッフが責任を持って分野別に担当し、実行し始めました。事業を各担当スタッフが組み立て、自ら実行していくことを学びました。国内事務局では平成20年度から平成22年度の3年間の中期計画を立て、ビジョンを持って仕事をしようと決意しています。

また、イベントなどの増加に伴って、ボランティアの力も不可欠なものとなりました。岐阜、愛知方面でのイベントでは、いつも多くの方にご協力をいただいています。飛騨地域でも、定期的に来て下さるボランティアの方に大変お世話になりました。

①地域開発及び地域自立支援に係る事業

①-1 ネパール・マカワンプル地区における地域住民参加型森林保全事業

（事業コード：SOM-1/2/07-1）

平成19年度より本格的にプロジェクトが始動したのを受け、9月にはネパールスタッフが来印しました。インド人、日本人スタッフと共に、インドのマイクロ・ウォーターシェッド事業地内にて「活動計画作り」「パートナーシップの構築」に関しての指

導員研修を受け、インドでの研修後、マカワンプール地区内のガティコラ村にて実践を試みました。また、水利事業の専門家 A.S.チャタジー氏（コルカタを拠点とする NGO の代表）を招聘し、マカワンプール地区内の森林の状況をガティコラ村森林利用グループのメンバーたちと共有しました。

年間を通して、和田信明（海外事業総括）、原康子（海外事業チーフコーディネーター）、前川香子（海外事業コーディネーター）、高田尚子（クラフト事業担当）、ラマラジュ（ソムニード・インドのプロジェクト・マネージャー）もそれぞれが現地を視察して今後の事業展開を共有し、事業運営、スタッフ研修、村人たちとのパートナーシップの構築などのファシリテーションを、ネパールスタッフや村の人たちに行いました。ネパールでの活動には、指導員育成事業では地球市民財団の助成を、森林保全事業では三井物産環境基金の助成を受けることができました。

ガティコラ村の人たちは、自分たちと森との関係を次のように話しました。「生まれた時は、森からの川の水を森の薪で沸かした産湯に浸かります。死んだら、森からの薪で火葬され、また火葬された後の灰を流すのは森から流れる川です。生きている間はもちろん、森から流れる川の水で農業をし、作物を育て、作物を育てるために必要な肥料も木の葉や草を使い、果実を食べ、薬草をとる等、毎日森と共に暮らしています。私たちは、生まれたときから死ぬときまで森と共にいるのです。」

①- 2 女性のイニシアティブによるコミュニティ開発

（事業コード：SOM-1/3/07-1）

ソムニードのカウンターパート NGO の CeFHA は、アーンドラ・プラデシュ州ビシヤカパトナム県コタウラトラ郡で活動しています。山岳民族そしてカースト（インドに残る階級制度）の低い社会的に立場の弱い女性を中心としたリーダーの育成と、中途退学した子どもたちへの公立学校への復学支援、若者リーダーの育成などを実施できるよう支援しました。女性グループが自分たちの貯蓄を使ってお金の貸し借りができるよう指導したり、また女性グループを通して、家庭の事情で小学校を中途退学した子どもたちに、学校に戻れるように補修授業を開いたり、子どもたちだけのグループを形成し、子どもの権利や HIV/AIDS を学習する会も開かれました。

①- 3 都市近郊農村部の女性自助グループと都市スラムの女性自助グループの連携による新たな産直運動構築と自立のための共有財産創出（通称 PCUR-LINK プロジェクト：JICA 草の根技術協力パートナー型）

(事業コード：SOM/PCUR-LINK/07)

平成 19 年 6 月で JICA 草の根技術協力事業(草の根パートナー型)による 3 年間の事業が終了しました。ソムニードの支援で設立された VVK という女性自助グループの連合体が、監督、脚本、演出、衣装、役者までをすべて担って、3 年間の活動を振り返る演劇をおこない、その演劇をもとに、JICA、VVK と一緒に 3 年間の事業評価をしました。

ソムニードは、スラムの女性たちの可能性を信じ、VVK が自分たちで組織運営をし、銀行業や農村部との女性と連携したクラフト素材などのビジネスができるよう、様々な研修を行い、彼女たちが失敗した時も、成功した時も一緒に経験してきました。今ではソムニードの研修を受けた VVK の指導員が新しいメンバーに研修をしています。JICA の事業終了後も、ソムニードはフォローアップとして VVK の管理費一部の支援と、VVK の要望に応じた研修を行っていきます。

「私たちの VVK だから、JICA の支援が終わっても、VVK を終わらせない。もっと多くの女性たちに VVK の活動を広げたい。」と、スラムの女性たちは誇らしげに語りました。

※3 年間のスラムの女性たちの奮闘とソムニードのファシリテーションの記録は、ブログにある「PCUR-LINK 便り」および「その後の VVK オバチャン便り」、また「PCUR-LINK 事業-演劇による終了時評価-映像」もご覧ください。

①- 4 地域住民主導による小規模流域管理（マイクロ・ウォーターシェッド・マネジメント）と森林再生を通じた共有資源管理とコミュニティ開発（通称マイクロ・ウォーターシェッドプロジェクト：JICA 草の根技術協力パートナー型）

(事業コード：SOM-1/MWS/07)

平成 19 年 8 月より、JICA 草の根技術協力事業（草の根パートナー型）として、スリカラム県のヒラマンダラム郡ゴトゥッパリ村、マーミディジョーラ村、メリヤプッティ郡ポガダヴァリ村の 3 村合計 667 世帯 3,107 人の村人たちと 3 年間の事業を開始しました。流域とは、山頂から平野部までの、水が入ってきて流れ出ていく所までの範囲を言います。その流域の中で、村の人たちが自然資源を有効に持続的に活用していく中期計画を作るために、必要な技術指導をしていくことになりました。

事業開始前には、3 村で事業を一緒に進めていこうと気持ちを新たに、まずは村にある自然資源の見直しから始め、各村独自の自然資源記録（植物図鑑）を作成しました。その過程では、村から村へとその技術を伝えていく指導員を養成し、インド農村

部行政機関の一つである村落自治組織のメンバーたちとも、自然資源管理の現状について共有しました。また、村の人たちは記録作りを通して、自分たちの村にはたくさん宝物（自然資源）があることを再発見し、その資源を守り増やしていこうという自主性も生じてきました。これらの研修・活動中には、コルカタに拠点を持つ NGO の代表者であり水利事業の専門家である A.S.チャタジー氏や、インドの法律についての専門家である、浅野宜之ソムニード理事を講師として招聘しました。

そして別々に作業をしていた各村の人たちが一堂に会し、この記録を元に、これらの自然資源の周りの環境を具体的に記した、村全体のリソース・マップを作ることになりました。このマップは、現在の村全体の土地利用や水資源の状況を明らかにし、今後の土壌改善や水資源の確保へと繋がっていく予定です。

※ 同事業に関わる村の人たち自身の感動やつぶやきが満載の「一水・森・土・人ーよもやま通信」（ブログ掲載）をご覧ください。

②人材育成及び研修生受入に係る事業

②- 1 ソムニード・職員研修

（事業コード：SOM-2/1/07-1）

平成 19 年 10 月から翌年 4 月にかけて、JICA 地球ひろば主催「組織力アップ！NGO 人材育成研修」に高田尚子が参加しました。この研修は、NGO スタッフの人材育成を通じて、NGO の組織を強化する事を目的としたもので、受講生自身が自分の団体の組織強化のために必要な研修プランを作成し実行する、参加型研修でした。この研修の一環で、ソムニード国内事務局の中期計画（平成 20 年ー平成 23 年）を作成しました。

また、同じく JICA 地球ひろばによる組織力アップ研修、会計分野の枠組みで、平成 20 年 1 月から 3 月までの延べ 9 日間、会計士に事務局へ来ていただき、研修を受けました。会計統括理事が担っている業務を事務局スタッフが分担できるように指導を受け、また認定 NPO 取得について助言を受けました。これによって、スタッフに責任感が生まれ、また新たに会計の技術を学ぶことができました。

平成 20 年 4 月までで、特定非営利活動法人アークス仏教国際協力ネットワーク「アークス NGO 人材支援」というスタッフ上清水温子への 3 年間の人件費補助が終了しました。これによって、国内事務局では、地域でのイベントや地元協力者を通じた広報

の強化、ボランティアの増加に伴う対応マニュアルの作成、会員以外の方々の情報整理など、様々な部分において組織強化につながる成果を出すことができました。

②- 2 ソムニード・インターン研修

(事業コード：SOM-2/1/07-2)

平成 19 年度は日本で 2 名、インドで 5 名のインターン生を受入れました。

高山では、NGO の現場の活動や政府との連携体制を学ぶことを希望していた女性を、17 日間受入れました。また、N たま研修のインターン生 1 名を約 1 ヶ月間受入れました。

一方インドでは、修士論文研究のための学生を約 1 ヶ月間、都市スラムの女性グループの活動を学ぶインターン生を 5 日間、その他に短期活動見学希望者を 3 名受入れました。

以上のように、ソムニードの活動を現場で学びたいというインターン希望が年々増えてきています。その他、企業の CSR 活動の一環として、フィリップモリスジャパンより 7 名の社員が高山事務局を訪れ、ボランティア作業を体験しました。

②- 3 JICA インドネシア「協働」研修受入

(事業コード：SOM-2/3/07-1)

2月14日～28日の約2週間、インドネシア「グヌンハリムン・サラク国立公園」から職員6名が来日し、「住民との協働」をテーマにした研修を実施しました。国立公園の周辺に住む村人たちが、自然を破壊せずに生計を向上させていくためにはどうしたらいいのか、というのが公園の抱える課題です。研修では、山形県飯豊町で住民が行政と協働して共有林を活用してきた現場や、兵庫県豊岡市で「コウノトリの野生復帰」をはじめとして環境に優しい農業と経済活性化に取り組む人たちを訪問し、具体的な事例から学ぶことができました。理事の長畑誠がコースリーダーとして全体を統括しましたが、「住民主体の森づくり」に取り組むソムニードならではの研修が実施できたと思います。

②- 4 JICA「市民社会活動の促進とコミュニティ開発」研修受入

(事業コード：SOM-2/3/07-2)

日本の市民社会活動やコミュニティについて学ぶ 8 カ国 15 人の研修生を、10 月 28

～30日の3日間受入れ、高山で研修を行ないました。ソムニードが平成19年度に立ち上げた「華・HANA・Bulaklakの会（飛騨在住アジア人花嫁の会）」の活動を紹介したり、高山市新宮町の住民が主体となってまちづくりに取り組む様子を視察したりしました。研修の最後には、ソムニード情報センターのある飛騨・世界生活文化センター（通称：飛騨センター）で、「高山と飛騨センターの宝物探し」を行ないました。飛騨センターの利用が活発になり、地域に住む人々の活動も豊かで活発なものになるために、センターの周りのどのような資源が有効活用できるかを考えました。

③ 調査・研究等に係る事業

③-1 森林セクター関連調査

（事業コード：SOM-3/2/07-1）

インドの森は、そのほとんどが国有林です。国有林は今まで政府の森林局だけが管理していましたが、最近では政府と住民による共同管理が必要になってきました。日本政府は、政府開発援助（ODA）で、インド各地で植林事業をしていきましたが、植林だけでなく、森の管理に携わる森林局の職員や地域住民への研修や研修施設の支援をすることになりました。そのために必要な調査の委託を国際協力銀行（JBIC）から受けました。ソムニードは長年のコミュニティ開発と植林の経験と技術を活かし、ラジャスターン州、西ベンガル州、アッサム州、タミルナードゥ州、アーンドラ・プラデシュ州の5州で現地調査を行い、最終報告書では、インド環境森林省が実施する、森林局の現場職員のための研修施設と研修方法の改善計画に対して、提言を行います。

※調査正式名称：「インド森林管理研修施設強化・人材育成事業に係る案件形成促進調査」平成20年8月に委託業務終了予定。

④ 国際理解の推進と啓発に係る事業

④-1 ソムニード・スタディーツアー2007

（事業コード：SOM-4/1/07）

平成19年度に計画していたソムニード・スタディーツアーは、他事業との連携や調整に関して再検討を行った結果、実施を平成20年度に延期することになりました。

④- 2 在住中国人女性等によるグループ作りと地域住民とのネットワーク創出

(事業コード：SOM-4/2/07-1)

ここ数年、日本人男性と結婚して飛騨地方に住む中国人を中心とするアジア人配偶者が増加しています。外部との接触が少ない彼女たちは地域の中で孤立する事が多く、このような定住アジア人配偶者が地域住民として仲間づくりができ、グループを通じて、地域の日本人住民との交流、連携ができる環境作りを行ないました。このような事業を、(財)岐阜県国際交流センターの委託事業として実施しました。

具体的には、外部協力者の地元女性と協力して、「華・HANA・Bulaklak の会～飛騨在住アジア人花嫁の会～」を立上げ、各地での小グループ活動、飛騨高山国際協会と共催のクリスマス会、母国語で話をするおしゃべりサロン、日本語講座などを開催しました。また、アジア人配偶者の家庭環境や生活状況、友人関係などを調査し、家族との協力関係を構築していくため、年間 65 回の家庭訪問も実施しました。

以上のような活動を通じて、外部から孤立し、地域との接触を警戒していたアジア人配偶者が、少しずつ地域社会との関係を広げていけるようサポートしました。

活動を始めた当初は知り合いのアジア人配偶者から誘われて、その人と一緒になければ参加できなかった人が、活動を重ねる毎に少しずつ自発的になり、活動の案内をすると自ら電話を掛けてきて参加したいと申し込めるようになってきました。また、高山市役所秘書国際室（在住外国人の担当部署）の担当者からは、「前年度に比べてアジア人配偶者からの相談件数が減っている」という感想を聞くことができます。

④- 3 地域づくりと国際協力 ～異文化との出会い～

(事業コード：SOM-4/2/07-2)

「地域づくりと国際協力～異文化との出会い～」という名称で予定していた事業でしたが、平成 18 年度からの継続性と一般の人にとっての親しみやすさを考慮して、「未来のぎふ、グローバルぎふ～異文化との出会い～」という名称で事業を実施しました。

「未来のぎふ、グローバルぎふ」は、岐阜市の県民文化ホール未来会館を拠点として、県民の目指す国際協力・交流のあるべき姿を追求する事業です。未来会館主催のもと、ソムニードは企画の立案や事業全体のコーディネートを行いました。平成 18 年度に第 1 回目を実施し、今年度は第 2 回目になります。今年度はテーマを「異文化との出会い」として、私たちの身近に存在する異文化の再発見や、日常生活の中での異文化との付き合い方について考えました。内容は、10 月のメインイベントと、年 4 回

の国際協力・交流団体によるパネル展示を行ない、メインイベントでは、異文化との出会いに関するパネルディスカッションや古田岐阜県知事のスピーチ、分科会、ワークショップ、参加型展示、パネル展示を実施しました。

メインイベントについては約 580 名が参加し、「岐阜県の国際交流の現状がわかり、日本人の私たちが何を心がけていかねばならないか、少しだが理解できた」、「到底出会える機会のない方々から、素晴らしい体験を聞かせてもらえた。グローバルな考え方で広い心で交流しあえるよう、自らの努力と社会参加を心がけたい」など、たくさんの反響をいただきました。

④- 4 参加と体験による岐阜の「外への国際化、内なる国際化」

(事業コード：SOM-4/2/07-3)

応募していた事業が不採択となったため、実施しませんでした。

④- 5 ナチュラルクラフト講座による国際協力と地域活動の連携

(事業コード：SOM-4/3/07)

(財)庭野平和財団の助成を受けて、今年度は「クラフト講座による国際理解教育」の仕組みづくりに取り組みました。一般の人にとって国際協力はまだまだ難しく、専門家が行うものというイメージが強いため、楽しく参加できるクラフト講座を、ソムニードの活動や国際理解教育の入り口として用いようと試みました。「しあわせを呼ぶランゴリー作り」や「インドと日本を結ぶエコロジーART 作り」など、年間で 13 回のクラフト講座を開催しました。また、クラフト講座による国際理解教育を行う人向けの冊子を作成しました。

また一方、5 月と 11 月に高田尚子が出張し、クラフト素材の調達について VVK や村の人々と調整をしました。村の素材を VVK が買い取って加工や梱包を行ない、日本に送るというシステムを、実際に日本側から発注を行いながら学んでいきました。

④- 6 インドと日本をつなぐ植林支援

(事業コード：SOM-4/4/07-1)

平成 19 年度中部電力記念植樹券プレゼント企画によるご寄付により、約 2,300 本、

また地元企業である駿河屋様によるご寄付により、約 780 本の木がオリッサ州ボダマンジャリ村に植樹されました。この植樹ではミニ水力発電所で利用している水路に土砂が流れ込まないように、山の斜面に土砂崩れ防止の植林と、農地の周りに柵としての植林を行いました。また、平成 19 年 4 月には、中電記念植樹 PR のため、撮影チーム 13 名の皆さんがオリッサ州プットシル村を訪れました。

森のトラスト植林支援者の皆さんからいただいたご寄付と、3 月末山王小学校 5 年生児童の皆さんからいただいた「山王の森」募金はアーンドラ・プラデシュ州スリカラム地域の植樹に使われる予定です。

マイ・フォレストでは平成 20 年 4 月、3 年間の支援期間を満了した方々に成果報告と継続願いをお送りしたところ、その全員が引き続きマイ・フォレスト支援を継続してくださっています。

④- 7 入会・継続礼状/インドからの礼状

(事業コード：SOM-4/4/07-2)

平成 19 年度は新しくソムニードの会員・支援者になって下さった方と、継続してご支援して下さる会員・支援者の皆さんへのお礼状を 405 通、お送りしました。インドからの礼状は、他の会員管理業務との兼ね合いにより発送しませんでした。

また、平成 19 年 10 月に、全国紙である朝日新聞の土曜版に和田信明代表理事の記事が掲載されたことで、全国から、また海外から団体へのアクセスが相次ぎ、新規会員と新規寄付者が増加しました。平成 20 年 4 月現在までのアクセス数 13 件、その内新規会員 9 人、新規寄付者 7 人ですが、この朝日新聞掲載記事がきっかけで、寄付をしたい、会員になりたいという方、またインターンやボランティアをしたいという方からのアクセスが続いています。

④- 8 ソムニード活動報告「印刷物とデジタルニュース（HP 等）」

(事業コード：SOM-4/4/07-3)

■ニュースレター「カシューナッツメール」

・森づくりの面からソムニードに係わるインド、ネパールの村の生活がどのように変化していったかを報告しました。

平成19年 3月 24号発行

「森が育ち学校に通えるように～森づくりによる生活向上の様子を特集」

平成19年 9月 25号発行

「ずっとこの村で暮らしたいー水、土、森など自然資源の活用について特集」

平成20年 1月 26号発行

「ネパールでの森づくり・人づくりー本格的に始まったネパールでの活動紹介」

■ニュースレター「Sangham」

・団体の理念や今後の展望、事業を中心とした活動報告をしました。

平成19年7月 44号発行 「新役員を迎えて、国内外事業報告」

■ニュースレター「南インドだより」

・ソムニードが主に活動している南インドの人々の暮らしを支援者の方により身近に知っていただくため、衣食住の観点で記事を組みました。

平成19年11月 03号発行 「お母さんから見る南インド特集」

平成20年 3月 04号発行 「子どもたちから見る南インド特集」

■交流誌「ちんなもっかる」

・ソムニードに関わる人たちの素顔を伝える交流誌。平成19年度は、高山とインドそれぞれのスタッフ紹介をしました。

平成19年11月 14号発行 「国内事務局他己紹介」

平成20年 3月 15号発行 「インド事務局スタッフ紹介」

■メールニュース

平成19年6月より、月1回のペースで、ソムニード・メールニュースの配信を開始しました。このメールニュースはソムニードのスタッフと理事が実際にインドと日本で経験したおもしろ体験談と、イベント情報、ボランティア情報によって構成されています。発行の目的は、ソムニードで働く人たちを身近に感じてもらい、またイベントやボランティアの情報を載せることで、ソムニードに関心を持っていただき、誰でも気軽に参加できる活動があることを知っていただくためです。平成19年4月現在で、既存の会員・支援者を含め約30人の登録者がいますが、引き続き登録者を募集中です。

④-9 キャンペーン（水やり、年末年始）

（事業コード：SOM-4/5/07）

より多くの人にソムニードの活動を知ってもらい、ご支援をいただくために、平成19年7月と11月にそれぞれ5,000名を対象に会員拡大キャンペーンを行いました。また、平成19年度のキャンペーンは、今までご支援くださった方々への感謝もこめて、植林を中心に支援の成果があらわれてきた村の様子をご報告しました。上記2つのキャンペーンにより、延べ約180名の方から合計約900,000円のご支援をいただくことができました。

■募金キャンペーン（年2回）

平成19年 7月 夏の募金（植林7年目の成果報告）

平成19年11月 年末年始募金（朝日新聞特集記事掲載）

④- 10 インドと日本をつなぐエコロジーART展

（事業コード：SOM-4/6/07）

平成 20 年 2 月、愛・地球博理念継承発展事業の助成金により、インドからの素材を使った「インドと日本をつなぐエコロジーART展」を高山、岐阜、名古屋で延べ 18 日間開催しました。

作品に使われた素材は、おもにソムニードのインド事務所があるビジャカパトナム市の女性自助グループ連合体 VVK や、オリッサ州のカウンターパート WIDA を通して買い取ったものを使用しました。都市にない自然素材を農村の女性たちに依頼して調達するなど、農村部の女性たちと都市部の女性たちの連携により素材が集まりました。

また、愛・地球博でご協力いただいた、草木染めを専門とする染色家、和紙を使った人形づくりを専門とする人形作家、和紙工房の社長のみなさんが、この ART 展で再び作品づくりに協力して下さり、3 会場で延べ 1,146 人の来場者がありました。期間内に、それぞれの会場で自然素材を使ったクラフト講座を開催し、自然素材やインドの新聞を使ったクラフトは大人にも子どもにも大好評でした。また同講座を、ART 展終了後も岐阜市、名古屋市で開催しました。

⑤地域支援活動に係る事業

⑤- 1 ひだ NPO 活動センター・空町倶楽部運営と報告書作成

（事業コード：SOM-5/1/07）

昨年度に引き続き、「ひだ NPO 活動センター・空町倶楽部」の活動を支援しました。ソムニードのスタッフが週 1 日の午前中、空町倶楽部に勤務しました。野菜とパンの

販売を平成 19 年 5 月まで行った他、月 1 回程度の地域の方のグループ利用にも対応しました。なお、施設の返却については、大家さんと交渉中のため、報告書作成は平成 20 年度に持ち越しました。

また、ソムニードの要望により、県の NPO 推進委員が飛騨センターに週 2 日常駐し、NPO 相談などの業務を行いました。NPO 相談室の電話をソムニード事務局内に置き、相談に随時対応しました。

さらに、平成 20 年度より開設された、高山市市民活動支援共同事務所「ぷらっとルーム」の活動にも協力しました。

⑥その他法人の目的を達成するために必要な事業

⑥—1 知的貢献による協働事業

(事業コード：SOM-6/1/07-1)

■各種イベント、講演活動など

平成 19 年度は、ソムニードの主催、共催イベントが 2 回、参加団体として招請されたイベントが 12 回ありました。また、講師、ラジオ・テレビ出演、指導者派遣も、12 回ありました。

日時	イベント名	出演者 参加者	主催者	会場・場所
5 月 16 日	ラジオ (ヒッツ FM) 「みんなの市民活動」	出演 高田尚子	ヒッツ FM	高山市
6 月 8 日	東海地方私立幼稚園連絡協 議会研修会 ワークショップ	上清水温子 稲部香代子	東海地方私立 幼稚園連絡協議会	飛騨・世界 生活文化セ ンター
6 月 24 日	イベント「自然とのふれあ いデー」ブース出展	高田尚子	飛騨コンソーシアム	飛騨・世界 生活文化セ ンター
7 月 17 日	講演 「文化人類学と国際協力」	講師 高田尚子		富山大学
7 月 31 日 8 月 9 日	イベント「地球温暖化防止 対策体験学習」ワークショ ップ開催	高田尚子 上清水温子	岐阜県地球温暖化防 止活動推進センター	飛騨・世界 生活文化セ ンター
8 月 3 ～4 日	イベント「夏休みこども体 験フェスタ 2007」ブース出 展	高田尚子 上清水温子	飛騨地域活性化推進 協議会	飛騨・世界 生活文化セ ンター

8月10 ～20日	パネル展示		夢キッズ	夢キッズ(ショッピングセンターパロー高山内)
8月19日	市民大交流フェスタ 2007 つながり、広がれ、愛・地球博(万博2周年イベント)ワークショップ	竹内ゆみ子 高田尚子	財団法人 地球産業文化研究所	NHK 名古屋放送センター
8月19日	イベント「インドフェスティバル」全体コーディネーターおよびワークショップ、ブース、パネル出展	全スタッフ	主催 飛騨コンソーシアム、共催 ソムニード	飛騨・世界生活文化センター
9月12日	ラジオ(ヒッツFM) 「みんなの市民活動」	出演 大塚由美子	ヒッツFM	高山市
9月15日	講座「犬山市子ども大学」 ワークショップ開催	講師 高田尚子	NPO 法人犬山市市民活動支援センターの会	犬山市南部公民館
9月16日	ラジオ(岐阜ラジオ) 「三輪博子のジョイフルサンデー」	出演 高田尚子		
11月3日	講演会 07EXPO70～わたしと万博～「わたしと国際支援 - 世界の国にこんにちはと言えるために -」	講師 竹内ゆみ子	主催: 吹田市立博物館「'07EXPO'70」市民委員会	大阪府吹田市立博物館
11月16 ～18日	イベント「第28回ぎふアジア映画祭」パネル貸出し	高田尚子	主催 岐阜市、(財)岐阜市公共ホール管理財団、ぎふアジア映画祭実行委員会	岐阜市文化センター
12月4日	イベント「飛騨高山国際協会設立20周年記念事業」 パネル出展	高田尚子 前川香子	主催 飛騨高山国際協会	高山市民文化会館
12月8日	講座「土曜会」ワークショップ開催	竹内ゆみ子 高田尚子	主催 土曜会	岐阜市ふれあい会館
12月8日	講義「岐阜県生涯学習コーディネーター養成講座〈マネジメント論〉ボランティア活動の現状と課題ⅠⅡ」	講師 竹内ゆみ子	岐阜県生涯学習センター	岐阜県生涯学習センター
12月9日	イベント「世界ぎふ祭り！」パネル貸出し		主催 岐阜県	大垣城ホール
12月15 ～16日	イベント「飛騨国際メルヘンアニメ映像祭」ブース出展	上清水温子 和田あすか	主催 飛騨コンソーシアム	飛騨・世界生活文化センター
1月1日	テレビ(岐阜放送) 「～古田知事の県民ふれあいシリーズ～語るまいか!未来・夢～ぎふライフ～」	出演 高田尚子		岐阜市
1月16日	ラジオ(ヒッツFM)「みんなの市民活動」	出演 上清水温子	ヒッツFM	高山市

1月27日	イベント「真冬の健康ラリー」ブース出展	高田尚子	主催 飛騨コンソーシアム、共催 ソムニード、森のなりわい研究所	飛騨・世界生活文化センター
2月9日	岐阜県国際交流団体協議会加盟団体会議 コーディネート	竹内ゆみ子		
2月10日	講義「NGO ディプロマコース第2学期」	講師 竹内ゆみ子	主催 財団法人国際開発高等教育機構 (FASID)	FASID 研修室
2月20日	山王小学校 5年生総合学習授業	講師 上清水温子 高田尚子		山王小学校
3月13 ～15日	講義 「第6回 UNCRD スタディキャンプ 持続可能な開発にむけてアジアと未来を分かち合うために」	講師 竹内ゆみ子	主催 国連地域開発センター (UNCRD) 国連センター協力会	かんぼの宿 知多美浜
3月23日	イベント「地域・環境サミット in 高山 2007」ブース出展、企画協力	竹内ゆみ子 高田尚子	主催 飛騨コンソーシアム、高山ロータリークラブ、高山西ロータリークラブ、高山中央ロータリークラブ、NPO 法人地域の未来・志援センター、セブンイレブンみどりの基金	飛騨・世界生活文化センター

- 名古屋 NGO センター「次世代の NGO スタッフを育てるコミュニティ・カレッジ 2007」(通称：Nたま研修) 受入
(事業コード：SOM-6/1/07-2)

名古屋 NGO センター主催「次世代の NGO スタッフを育てるコミュニティ・カレッジ 2007」(通称：Nたま研修)の国内研修と海外研修を受入れました。国内研修は11月23～25日の2泊3日、高山市清見町で実施し、11名が参加しました。平成19年度は「清見地区での地域の資源を探す。一見不便なこの地域に、人はなぜ移住してきたり、住み続けたりするのか？」というテーマのもと、清見地区を歩いたり住民から話を聞いたりして、地域の資源及び課題について考えました。海外研修は2月4～13日

の 10 日間、インドのアーンドラ・プラデシュ州で実施し、9 名が参加しました。VVK やポガダヴァリ村への訪問や人々とのやりとりを通じて、言葉やイメージ、期待を捨てて現場から事実を見ることの大切さを学びました。

今年度は国内と海外両方での研修受入れとなったため、両方の研修につながりが出てくるよう配慮しながら実施しました。ソムニードが地域づくりの取り組みをインドと日本の両方で実施するのはどうしてなのか、インドと日本の共通の課題とは何なのか、研修生たちには考えてもらいました。

今年で 5 回目となった N たま研修の受入れですが、N たま修了後もボランティアやアルバイト、インターン生としてソムニードに関わり続けてくれる研修生は数多く、ソムニードの活動を支える力となっています。また、受入れ側であるソムニードスタッフもインド、日本両方において、研修のコーディネートをする若手スタッフが育ち始めています。

2007年度 収支決算書

(2007年4月1日～2008年3月31日)

収入の部

(単位:円)

勘定科目 大科目	中科目	2007年 度 予 算額	2007年 度 決算 額	差 額	備 考
	国際理解教育事業収入	2,704,000	0	-2,704,000	スタディツアー
	業務委託収入	(72,155,000)	(73,764,349)	1,609,349	JICA・JBIC
		19,274,000	19,439,349	165,349	JICA草の根技術協力他
		48,235,000	53,185,000	4,950,000	JBIC委託調査
		4,646,000	1,140,000	-3,506,000	ふるさと再生基金・国際交流センター他
会費収入	会費収入	500,000	423,000	-77,000	
寄付金収入	寄付金収入	5,000,000	5,065,276	65,276	
	指定寄付収入	16,640,000	12,413,539	-4,226,461	プロジェクト指定寄付
	団体寄付収入	500,000	454,500	-45,500	中電植林他
補助金収入	補助金収入	1,200,000	4,953,708	3,753,708	アークス人件費補助・地球産業文化研究所
助成金収入	助成金収入	2,354,000	6,886,538	4,532,538	地球市民財団・三井物産環境基金・庭野財団
雑収入	受取利息	0	5,083	5,083	
立替金収入	立替金収入	0	45,098	45,098	
預り金収入	預り金収入	0	3,767,097	3,767,097	
仮払金収入	仮払金収入	0	2,108,638	2,108,638	
借入金収入	借入金収入	0	61,900,000	61,900,000	
当期収入合計	(A)	101,053,000	171,786,826	70,733,826	
前期繰越収支差額		3,392,556	3,392,556	0	
収入合計	(B)	104,445,556	175,179,382	70,733,826	

支出の部

(単位:円)

勘定科目 大科目	中科目	2007年 度 予 算額	2007年 度 決算 額	差 額	備 考
管理費	(管理費計)	(8,665,000)	(6,191,205)	-2,473,795	
	人件費	4,100,000	2,323,080	-1,776,920	給与、手当、賃金
	消耗品費	600,000	80,722	-519,278	
	通信費	850,000	437,415	-412,585	
	旅費交通費	30,000	20,571	-9,429	
	会議費	5,000	0	-5,000	
	貸借料	450,000	235,122	-214,878	
	什器備品費	10,000	0	-10,000	
	営繕費	10,000	0	-10,000	
	水道光熱費	65,000	4,867	-60,133	
	広報費	6,000	6,000	0	
	租税公課	2,000	0	-2,000	
	新聞図書費	40,000	33,144	-6,856	
	保険料	90,000	2,700	-87,300	
	振替手数料	70,000	67,233	-2,767	
	支払利息	300,000	1,029,597	729,597	
	諸会費	100,000	68,990	-31,010	
	支払手数料	92,000	105,995	13,995	
	振込手数料	100,000	12,743	-87,257	
	寄付金支出	5,000	0	-5,000	
	法定福利費	1,600,000	1,689,233	89,233	
	福利厚生費	30,000	28,530	-1,470	
	事務用品費	60,000	19,015	-40,985	
	雑費	50,000	26,248	-23,752	

(単位:円)

事業費	(事業費計)	(95,776,000)	(90,126,909)	-5,649,091	
	①地域開発及び地域自立支援に係る事業	21,912,000	24,693,240	2,781,240	
	②人材育成及び研修生受入に係る事業	189,000	1,754,514	1,565,514	
	③調査・研究等に係る事業	48,482,000	44,854,967	-3,627,033	
	④国際理解の推進と啓発に係る事業	16,261,000	9,374,953	-6,886,047	
	⑤地域活動支援に係る事業	313,000	42,590	-270,410	
	⑥その他本法人の目的を達成するために必要な事業	8,619,000	9,406,645	787,645	海外プロジェクトコーディネート事業・コンサルタント料含む
固定資産取得支出	什器備品購入支出	0	747,186	747,186	
預り金支出	預り金支出	0	3,363,434	3,363,434	
仮払金支出	仮払金支出	0	4,113,638	4,113,638	
借入金返済支出	借入金返済支出	0	37,900,000	37,900,000	
予備費	予備費	4,556	0	-4,556	
当期支出合計	(C)	104,445,556	142,442,372	37,996,816	
当期収支差額	(A)-(C)	-3,392,556	29,344,454	32,737,010	
次期繰越収支差額	(B)-(C)	0	32,737,010	32,737,010	

※各事業費の支出明細は別添事業支出明細の様。

特記:次期繰越収支差額の内容は次のとおりである。

科 目	金 額	
現 金	141,547	
普通預金	18,898,006	
現預金計	19,039,553	①
未 収 金	37,943,711	②
未 払 金 ・ 未 払 費 用	24,246,254	③
次期繰越収支差額 ①+②-③	32,737,010	